



11月26日「アクセンチュア株式会社」と「NPO 法人 CANVAS」が進めている「課題解決型ロボットプログラミング教室」について「一般社団法人横浜すばいす」と「情報科学専門学校」と連携して、瀬谷区のニッ橋小学校キッズクラブで開催した。

ニッ橋小学校キッズクラブの1年生から6年生の希望者20名がロボット「ROMO」を使用し、プログラムを組み合わせるとロボットを思い通りに動かすという醍醐味を体験した。

— やり遂げた満足感ともっとやりたいと ROMO を手にした子どもたちの笑顔 —

- ・最初に子どもらの興味・関心の背景を知るための事前アンケートがあります。
- ・受付を済ませると同時にメンターの学生たちが不安を取り除き、興味関心を増すような支援が始めます。



ROMO (公式サイトより)

Romo(ロモ)はiPhoneなどで動く「体感型のエデュケーショナルロボット」で、誰でも動かすことが可能です。iPhoneアプリが頭脳の役割になり、様々な感情や動きを表現することができます。楽しみながら子どもの論理的思考や創造力、思考力を育むことができ、遊びや学びの幅がさらに広がる可能性を秘めています。



- ・最初に「初めてのプログラミング体験」なので、異年齢の子どもらにわかりやすいように、全体を説明します。

アクセンチュア株式会社と NPO 法人 CANVAS が所有する「ロボットプログラミング指導プログラム資料」を活用して、子どもらにわかりやすく導き、ROMO を動かすプログラミングを情報科学専門学校の学生たちが担当した。

- ・学生のリーダーによる具体的な作業の説明が全体にあります。
- ・グループごとにメンターの学生が身近な相談役と指導にあたります。最初は一人一人が ROMO の



動作確認です。指示したとおりに ROMO が動き出すと教室は熱気に包まれてきます。

・最後はチームごとに知恵を絞って宇宙探検のプログラムを作って、出発します。全員ではらはらしながらミッションの成否を見守ります。ロボットを動かす指示がコンピューターで制御されていることにも気付いた体験となりました。

コンピューターやプログラミングの専門家である情報科学専門学校の学生が2、3名の児童に一人メンターとして若い学生が支援するという非常に恵まれた学習環境で、最初は硬い表情だった子どもも瞬く間に目が輝き夢中になっていく様子が教室全体に広がった。

ROMO を始めとして、無料で使用できるプログラミング材料が web 上には多数存在する。児童の理解や興味関心に応じて、学習を深めることができるように家庭でも可能なサイトの紹介を行っている。



平成30年度に小学校で「プログラミング教育が必修化」されるが、「プログラミングを体験すること」により、「プログラミング的思考を育成」する事に繋がります。

プログラミング的思考は「論理的に考えていく力」であり、問題解決に「コンピューターの働き」を理解し、活用できるか考え、AIと協働する社会をさらに身近にできます。

未来という現実世界に向かう子どもたちが「プログラミング教育」を学ぶ第一歩を魅力的な場にてできる Robo*C の活動をご紹介させていただきました。

(一般社団法人横浜すばいす・Robo*C 担当 古川三千代)